

## 「すべての原発を廃炉にしよう！」シリーズ20

# 「原子力技術はコントロール可能？」

## 『今こそ原子力推進に舵を切れ』 WEDGE9月号

第3章では「原発は安全であり、経済活動を止めることは法治国家としては許されない。福島事故以前の安全基準に従って全ての原発を稼働せよ」と言う。

まるで“ブレーキが故障した車でもスピードを上げろ！”と言っているようなものだ。これが「法治国家」を標榜する筆者の姿である。

ところで原子力規制委員会による新たな安全審査自体も抜け道だらけである。たとえば地震・津波・テロ攻撃などで事故が発生し、中央制御室が使用できないことを想定し「中央制御室から100m以上離れた場所に、原子炉を遠隔操作できる第二制御室を作ること」が求められている。しかし「移動型設備（消防車・電源車）が配備されたら、当面は安全」として5年の猶予期間が設けられている。そのため関西電力大飯原発3・4号基などは中央制御室の横にある会議室を「仮設」として申請し、規制庁幹部も「機能さえ満たせば仮設タイプでも適合する」と語っている。またフィルター付きベント設備の設置も加圧水型は5年の猶予期間が設けられている。四国伊方原発などは津波対策として最大4・3mの津波を想定し、非常用ディーゼル発電機にはドアにゴムのパッキンを張ることでしかない。東日本大震災時のように15mを越える津波が来たらどうするのか？はたして「巨大地震は5年間待ってくれるのか？」これでは新たな規制基準自体が原発再稼働に向けた「安全」のお墨付きをあたえるための道具にされかねない状況にある。

### どこにトイレがあるの？放射性物質の保管場所は存在しない！

さらに「原発の廃棄物を深地層処分する技術は既に確立され、600年で銅と同レベルの毒性まで落ちる」と言い切る。日本のどこに放射性廃棄物保管場所があるのか？世界中でもフィンランドのオンカロにあるのみだ。しかもウラン鉱石（自然）と同レベルの放射線量にまで落ちるのに1万年以上の時間がかかる。プルトニウムにいたっては24万年でやっと半分となる。「600年で毒性が落ちる」とは何を根拠に言うのか？ここまで公然と嘘とごまかしの文章にはあきれるばかりである。

最後に「定期検査中の原発も稼働させながら点検した方が、運転員・作業員は緊張感のある作業となるので、スキル向上と異常時対応能力も上がる」と言う。

まるで新幹線運転中の乗務員に次々と諮問を投げかけ、運転妨害して安全を危うくしているJR東海の管理者と同じ発想である。